

# 山形県立自治講習所第一期生日誌（一九一六（大正五）年）

三原 容子

一九一五（大正四）年設立の山形県立自治講習所跡地（山形市緑町、緑町会館駐車場北東隅）に「山形縣立自治講習所之跡」記念碑が建っている。その裏面の全文は左の通りで、講習所の概要、関係者名も明記されている。

市町村中堅職員の養成を目的とした山形県立自治講習所は 大正天皇即位記念事業として 小田切知事の発議により大正四年十一月この地に開所した

初代所長加藤完治は 単なる知識技能の教育にあきたらず 開墾を体した勤労教育による農民魂を鼓吹し 人材養成に偉大な功績をのこした 大正十四年十二月加藤所長退職し 西垣喜代次が所長に就任 其の教育事業を継承した

昭和八年講習所は閉鎖され新設の国民高等学校としてこの地を離れたが其の教育方針は一貫して堅持され 本邦拓植教育界の源流となった  
歴史的価値に輝く講習所の遺跡を回想し 県及び有志がここゆかりの地に記念碑を建立するものである

昭和四十二年五月

山形県立自治講習所遺跡保存会

碑題字

加藤 完治 書

撰文 山形県知事 安孫子藤吉



講習所開設の目的は「市町村中堅職員の養成」であり、入所者の出身地は県内各町村にわたっていた。後に村長等の要職を務めた者が少なくない。入所生は毎日日誌をつけていたようで、日誌の原本が、県立自治講習所の後身の国民高等学校の、さらに後身である上山明新館高等学校の資料室に保存されている。二〇一〇年三月に調査した時は、本稿で紹介する大正五年の日誌しかなかったが、その後、他の年の日誌も見つかったので、順次紹介していく予定である。上山明新館高校関係者には、ありがたいことに貴重な資料の閲覧を快く許していただけた。

所長である加藤完治は、「満州開拓の父」と呼ばれる満州農業移民送出推進者であり、一九四五年八月以降の満州と引き揚げ過程での悲劇をもたらした主犯の一人であるという見方が一般的であろう。また、加藤が寛克彦の「古神道」を教育に取り入れたことがよく知られているため、神秘的宗教的教育のイメージもつきまとう。過去に加藤完治に関する研究は多数あるが、今後の研究の進展のためには、その時代の資料で残っている物をできるだけ明らかにしておきたいというのが、本資料紹介の目的である。

日誌は「山形県立自治講習所」特注罫紙を使用し、筆と墨で書かれている。古文書判読のベテラン秋保良氏（鶴岡市立図書館郷土資料室）に見ていただいたが、「お家流」のくずしからはほど遠い癖字もあり、完全判読は困難とのことだった。秋保氏のご教示により新たに数ヶ所判読できたことに感謝申し上げる。判読不能箇所はそのまま示した。

なお、入所後五月十三日までの頁が欠けている。また五月十八日分から六月四日分までは、数枚欠けていると思われるが、理由は不明である。

一九一六年当時の第一次史料である。読み手によって興味関心のポイントが異なるだろうが、判読作業の中で筆者が興味深く感じた点を二点挙げておく。一つは、「帰省」「帰所（帰舎）」が頻繁なことである。自宅の遠近や家庭事情によるものだろうか、ばらばらに出入りしているようだ。加えて、講習生が校外に出かけたり、ゲスト講師が来所したりすることが非常に多いこと、講義と農業実習や見学が組み合わされていることなどから、教育活動が活発で開放的な印象を受ける。

もう一つは、六月十五日の山形県庁落成式、九月三日の山形駅落成式など、当時の山形事情を物語る史料として興味深い記述があることである。九月十五日の修了式は、県知事以下多数の来賓が列席する中で行われ、県内各町村の未来

を担う講習生への期待の大きさが伺われる

凡例（一）内はすべて三原による）

- ・変体仮名はすべて現在の仮名に改め、必要に応じ句読点と濁点を入れた。片仮名と平仮名は原文通りである。

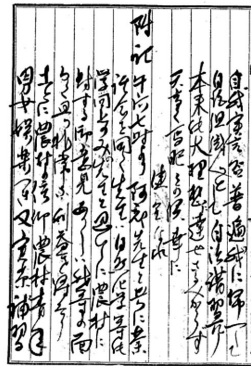
- ・旧字体は新字体に改めた。「全」は「同」とした。不明箇所は□とした。

- ・当時の温度表示は華氏である。「」内に摂氏温度（小数点以下四捨五入）を示した。

- ・日付曜日のみ太字表記とした。

・大正四年十二月十六日入所、翌年九月十五日修了の一期生二十三名の氏名と出身町村は次の通りである（五十音順）。生年月日を元に計算した大正五年四月現在の満年齢も付しておいた。十九歳から三十二歳の若者たちであり、学歴別では中学卒業九名、農学校卒業六名、高等小学校卒業八名である。

五十嵐佐恭：東置賜郡屋代村	27	齋藤莞爾：北村山郡長瀬村	20	蛸井多治：東田川郡黒川村	29
五十嵐政次郎：東村山郡金井村	32	齋藤堅吉：飽海郡観音寺村	21	新野義雄：西置賜郡添川村	22
池田留蔵：飽海郡西平田村	21	齋藤丹羽之助：飽海郡中平田村	29	本田吉馬：南置賜郡窪田村	23
石岡與太郎：東置賜郡赤湯町	22	須貝隼太：南置賜郡玉庭村	21	榎士朗：西村山郡谷地町	20
小野俊一：西村山郡谷地町	20	鈴木市三郎：東村山郡楯山村	20	村山徳一郎：東村山郡中村	22
小野政義：最上郡金山村	19	鈴木辰司：西置賜郡豊田村	25	渡邊忠雄：西村山郡三泉村	20
川合和吉：東置賜郡吉野村	22	高橋猪一：東置賜郡上郷村	25	渡邊辰男：西村山郡寒河江町	25
岸善治（善次）：東村山郡大曾根村	21	高橋十：北村山郡袖崎村	22		



\* \* \* \* \*

五月十四日 日曜日

天候 晴天

温度

本日、午前四時半、齊藤丹羽之助君、高橋猪一君、

本田吉馬君、高橋十君、舟越君の五名、白鷹山へ

登山せらる。

本日帰舎せられし諸君左の如し。

岸善次君、渡邊忠雄君、川合和吉君、村山徳一郎

君

所長は天童に於ける東村山郡自治研究会へ出張せらる。

五月十五日 月曜日

天候 晴天

温度 五十三度〔11〕

行事 七時より約一時間所長の昨日の天童に於ける自治

研究会に付きて御話(お話を)があつた。其後校内の掃除。

午後農場実習、県内視察旅行日程を作る。

動静 五十嵐佐恭君帰舎せらる。

五月十六日 火曜日

天気 晴天

温度 六十一度〔16〕

行事 自七時至八時半習字、自八時半至十時農村経営、

自十時至十一時土壤、自十一時至十二時論語、午

後農場行、葱ノ除草及馬鈴薯間引除草を為す。三

時より農事試験場に参り田の打起す伝習を為す。

五時半帰舎。

動静 鈴木辰司君帰省

五月十七日 水曜日

天候 雨天

温度 五十二度〔11〕

行事 七時より加藤先生の病虫害、八時より安武先生の

自治行政、其の後の学課は休み、早中食にて、一

部は試験場の播種田に、一部は明日の準備、一部

は午後四時よりの講話会の準備、花田中佐の講話

会四時よりの所、時間が遅れて五時半よりある。

聴講者官吏十五六名、巡查三十五名、出羽村青年

会三十名等あり。夜七時より視察に関する注意、

県庁の庶務課より三人来所せられてありたり。終

りに茶話会あり。明日より視察旅行に出発の準備

に多忙なり。

動静 小野俊一君帰省、須貝隼太君帰所。

\* \* \* \* \*

第二校時蔬菜至八時の一時間、九時より十二時まで  
読書会。榎士朗君、諏訪ノ原新田。須貝隼太君、  
病、離学。川合和吉君、東村山郡出羽村。

所感

本日八樂しき土曜日、常には暗きこのランプ、今夜ばかりは輝るなれ、天気晴朗なれば、午后からの自由時間の利用は思ひ思ひに事をなしたり。或ひは山に川に、或ひは公園に浩然の気を養ふあり。或ひは千歳の山林溢ふるローマンチックなる阿古屋の松を尋ぬるあり。  
或ひは恋しき故郷と遙々愛づるあり。帰省せられたる者八次ぎの如し。

五十嵐政君、村山君、鈴木両君、渡邊両君、石岡君、新野君。

五月<sup>(二十)</sup>□日 日曜日

天候 雨 五十六度(13)

行事 新知事閣下お迎の為め加藤所長講習生四五名と共に至る。

所感

日曜と待ちに待ちたる日曜日も雨の為にむなく舎内に暮すあはれさよ。

\* \* \* \* \*

所感 日八忘れたれどもいつぞや、講習生の或る<sup>(一人の)</sup>□□

青年に煩悶なきは愚人なりと絶叫したる者あり。

我れの真なりと思けり。然れども今算先生の随神道をきき我れ真に誤れるを知る。あゝ我が親愛なる講習生諸君、青年たるも事情<sup>(マ)</sup>情実に悶々ならず。弥栄の意気込を以つて高之原に追迫せんの覚悟なかるべからず。

六月五日 月曜

天候 日本晴

寒暖 八十度(27)

行事 午前八時ヨリ十二時マデ算先生、午后ヨリ二時間質問。

所感

我凡夫にして信仰とか宗教とか言葉は知れど此れを真に解す能ハざりき。心ハ乱れて常に統一せられず、此れをきけば此れに移りあれをきけばあれに移る。皇国の民なる我、皇国の精神、尊き高天原あるを知らざりき。我先生の(算法学博士)の御話しに暗夜灯を見出したるが如し。

六月六日 火曜日

天候 蒸れ熱きこと一方ならず

温度 八十三度(28)(午前十一時)

行事 午前八時ヨリ十二時マデ算先生

所感

午后三時ヨリ県社湯殿山神社に寛先生と共に参拜す。神社尊き八知れど今日古神道の魂たる先生と共に

共拜して言ふに言八れぬ一種莊嚴なる感にうたる。

寛先生、本夜行九時二十五分より発車にて御帰京

なさる。見送り人知事閣下を初め数十人。加藤□

所長、□□□に、天皇陛下御光の許に寛先生

弥栄――

弥栄――

いやさか――

我等が崇拜おくあはざる先生の御貌へ太太一條

の煙を残して、暗き南の方に見えずなりぬ。寛先

生、先生の御貌八実存にして八□□にはあらず。

されどされど、目を閉じて静かに考ふれば、先生

の御貌八我等が眼前に浮ぶ。いな、御精神八永遠

に我等を去らず。さらば寛先生、御身体御健全に。

六月七日 水曜日 齋丹

天気 晴  
温度 八十三度（28）

行事 午前八時ヨリ一時間加藤先生ノ病虫害ノ講義アリ。

九時ヨリ庄内地方視察談アリ。即ち高橋猪一君よ

察談終工テヨリ先生ヨリ県外旅行二付御話アリ。  
午後大掃除ヲ為ス。

六月八日 木曜日

天気 晴天 暖気甚だし

温度 八十九度（32）

行事 自七時より至八時 習字、自八時より十一時迄

経済学、自十一時至十二時 三浦先生の大学、午

後全部実習（農場行き）

六月九日 金曜日

天気 晴（午后五時過ギ少し降雨アリシモ忽チ晴レタリ

寒暖 八十度（27）

行事 自午前七時至同八時 加藤先生ノ病虫害、自午前

八時至同九時 安武先生ノ自治行政、自午前九時

十分至同十時半 加藤先生ノ病虫害、自午前十時

四十分至同十一時五十分 同先生ノ植物、午后一

時ヨリ同四時迄 農場実習、午后六時ヨリ同八時

迄 安武先生ノ自治行政。

六月十日 土曜日

動静 午後榎士朗君、渡邊忠雄君帰省。  
天気 晴  
寒暖 八十二度（28）

行事 都合で午前六時半より加藤先生の経済学の講義あり。同九時に終はる。伊佐早先生御来所の筈の処、

午前中御用の為御休み。午後一時より山形中学校に於て伊佐早先生の御講演あり。講習生一同列席す。先生の演題「藤田東湖先生に就いて」。

動静 五十嵐政次郎君、高橋猪一君、齋藤莞爾君、鈴木市三郎君、帰省せらる。楨士朗君帰所。

六月十一日 日曜日

天候 午前曇、午後大雷雨

温度 七十度(21)

連日の天気続きにて各所水不足にて困窮の際、午後西天突如として黒怪雲を生じ雷霆轟として身山を震ひ驟雨沛然として至る。見よ草木の青青一段たる活気を呈せるを。

附記 本日午前橋本氏外二名来所。

六月十二日 月曜日

天候 午前雨後晴

温度 七十八度(26)

行事 午前七時ヨリ古神道 八時三十分迄、九時ヨリ経済学、午後一時ヨリ実桑つみ 五時迄。

六月十三日 火曜日

天候 午前晴 午後曇

温度 八十度(27)

行事 自午前七時八時迄 土壤学、

自〃 九時十時迄 漢文三浦先生、

自〃 十時十二時迄 土壤学。

附記 午前七時五分頃微震アリ。五十嵐政次郎、五十嵐佐恭、鈴木辰次君帰所。午後実習農場桑つみ。

六月十四日 水曜日

天候 曇

温度 七十八度(二十五、六度)

行事 午前九時迄舎内掃除、九時ヨリ農場実習桑摘、午後六時迄

後六時迄

動静 午後二時二十分糠目小学校校長外一名參觀セラレタリ。石岡与太郎君帰所。

感想 本日は地方農家養蚕の激繁ナル時機ニシテ吾が農場の桑葉は本日为期し売却せざるべからず。依て終日全講習員の出場を見たるありや。

六月十五日 木曜日

天候 晴

温度 八十度(27)

行事 此日午前七時ヨリ一同桌社湯殿山神社工参拝ス、

温度 八十度(27)

行事 此日午前七時ヨリ一同桌社湯殿山神社工参拝ス、



八時ヨリ三浦先生ノ大学ノ講義、九時三十分迄同時ヨリ午<sup>マ</sup>午一時三十分迄農場実習桑摘、二時四十分ヨリ三時迄武道。

附記

午后二時ヨリ本県タ庁舎落成式工内務大臣ノ代理トシテ来県セラレタル内務省地方局長渡辺勝三郎氏及内務省属添田知事、安武理事官ト共ニ来所セラレ、參觀後講習生一同ニ対シ約四十分間地方自治ト中央政府トノ關係ニツイテ講話セラレタリ。午后七時ヨリ山形市共賛会ニテ八県庁落成式ヲ共祝スル為メニ市民ノ提灯行列ヲ催セリ。

感想

明治四十二年<sup>(正しくは四十四年)</sup>山形市大火ノ際類焼ノ災ニ罹リシ山形県庁舎八以來五ヶ年間ノ星霜ヲ経テ馬淵、小田切、添田ノ三知事ヲ透シ<sup>(透シ)</sup>經費約四十余万円ヲ投資シ今年本月本日ヲ以テ目出度落成式ヲ揚グル。県民共ニ大ニ喜バザルヲ得ザルナリト共ニ県将来ノ幸福ヲ永遠ニ欣祈セザルベカラズ。回首セヨ、県下ノ諸氏四十万円ノ經費八何処ヨリ拋出セラレシヤ。其大部分ハ山形県民ノ油汗ナリ。否吾人農民ノ和魂産靈ノ幾分ナリ。庁舎ノ構造形式外觀上ハ落成セシト云ヘドモ県民トシテノ県庁落成式ハ今後兩三年後ニ於テナラン。吾人農民ハ徒ラニ形

飾ノ行動ニ透導セラレテ自己目下現在ノ立脚地ヲ忘レタランニハ、進退茲ニ極迫シ自滅ノ曲ヲ演ズルニ至ラン。忘ル、勿レ、二十余億ノ国債ヲ迎エザルベカラズ、二百二十万ノ治水費ヲ。地方自治ノ振興ハ華ヲ去リ実ニ就クニ如力ズヤ。

六月十六日 金曜日

天候 晴

温度 八十五度(29)

行事 午前七時三十分ヨリ植物病理学、八時三十分ヨリ

経済学、十時三十分迄同時ヨリ新県庁舎參觀、午後一時ヨリ農場実習桑摘六時迄。

動靜

五十嵐政次郎君、同佐恭君、本田吉馬君、渡辺辰男君、同忠男君、鈴木市三郎君、石岡与太郎君、齋藤完爾君帰省。

六月十七日 土曜日

天候 晴

温度 八拾三度(28)

行事 午前第七時ヨリ八時迄習字、講師田中書記殿。第

八時廿分ヨリ経済学、加藤所長。第九時三十分ヨリ病理学。第拾時四十五分ヨリ経済学。后午<sup>マ</sup>壹時ヨリ榮王堂階上ニ於テ残留寮生ノ親睦会ヲ開ク。



会費金拾銭也。會長高橋十君。

動静 岸善次君、鈴木辰治君、村山徳一郎君、帰省。

六月十八日 日曜日

天候 雨後曇

温度 八十三度(28)

行事 ナシ

動静 岸善次君、渡部辰男君帰寮

六月拾九日 月曜日

天候 快晴

温度 九十度

行事 自七時迄八時、古神道。八時ヨリ九時二十分、自

治行政。残時間農村経営。午后実習、第六時頃まで。

帽章出来ました。天皇陛下御光の本に吾人は帽章を附するの光荣弥有す。第八時より官舎に於て茶話会ありたり。九時半まで。御菓子と果物を御馳走になりまして、誠に有がたし。厚く本紙上に於て舎生一同御礼申し上ぐる次第の事で御座る。

六月廿日 火曜日

天候 快晴、小風あり。心地よろし。

寒暖 八十九度(32)

行事 自七時迄八時習字、田中書記官。八時より九時二

十分まで大学の講義。本日をもって大学の講義終了す。

六月二十一日 水曜日

天候 雨

温度 八十度(27)

行事 病害、自治行政、病害。午后掃除、武道

動静 本田吉馬君帰所セラル

六月廿二日 木曜日

天候 晴

温度 八十四度(29)

行事 晨習字、午前八時より三浦先生ノ中庸講義。九時半より経済ノ学課。午后農場実習三組人糞尿ノ運搬トス。

動静 朝七時鈴木市三郎君ノ帰所アリ。

六月二十三日 金曜日

天候 雨又曇り又曇り又雨

寒暖 七十五度(24)

行事 習字及経済及土壤

動静 変りなし

六月二十四日 土曜日

天候 曇り後雨

寒暖 六十八度（20）

行事 習字。土壌。伊佐早先生。旅行の話し。

感想 我等が敬愛おくあはざる伊佐早先生が最後の御

教授なり。御多忙なる御身にもかゝらず我等が

為めに今日まで御出で下され我等が将来の為に

深切なる御訓諭。我等先生の御教へは今日にて終

るといへ、いかでこれにておはりとお思はんや。

口筆に現八す得ずと八いひ、私かに期する所ある

べし。

六月廿五日 日曜日

天候 曇り晴れかはりがはり

寒暖 七十二度（22）

行事 農場実習。井上文学博士講話傍聴。

感想 井上博士の講話 一、仏教の人生観、二、幽霊の

話

仏教といひ幽霊といひ、我等八解し能ハざる処の

みなり。然るに先生の御話しに依りいささか解せ

らるゝ如し。

六月二十六日 月曜日

天候 曇

寒暖 七十四度（23）

行事 自午前七時至同八時、加藤先生ノ古神道、

自同八時十分至同十時、安武先生ノ自治行政、

自午前十時十分至同十二時

自〇時半至午后四時 所庭ノ除草

動静 渡辺忠雄君病氣にテ欠席ノトコ日本日午后帰舎セリ。

附 午后三時ヨリ山形市教育会ノ主催ニカ、ワル文学

博士井上円了先生ノ講演ヲ傍聴セリ。演題ハ「国

民道德ニ就キ」。会場ハ女子師範学校。

六月二十七日 火曜日

天候 曇 時々降雨あり

寒暖 七十二度（22）

行事 自午前七時至同八時、校舎大掃除、自同八時半至

同九時半、三浦先生ノ中庸。

加藤先生より旅行に行く人には注意あり。

動静 午後より休暇を得て帰省す。舎に残りしもの

蛸井君、高橋十君、齊藤堅吉君、齊藤丹羽之助君、

池田留蔵君、本田吉馬君、小野正義君、村山君、

渡邊忠雄君ノ九君。

六月二十八日 水曜日

天候 降雨

温度 七十三度(23)

臨時休業

残留者 蛸井君、齋丹君、齋堅君、渡忠君、高橋十君、

小野俊君ノ六名

加藤所長米沢行き、本日かへる。

六月二十九日 木曜日

天候 快晴

温度 七十六度(24)

我等県外旅行団は午後九時二十五分の夜行にて出発。その前一同県社湯殿山神社参拝。左之日割を以て旅行す。

旅行日程

六月二十九日 夜行出発

三十日 群馬県野中村一泊

七月一日 氷川神社参拝

同日 午后宮城乃木大将墓靖国神社参拝

七月二日 千葉県山武郡源村視察

東京泊

〃 三日 西ヶ原農事試験場農科大学

鍋島侯松波園 東京泊

七月四日 加納子爵、スコット氏、内務省商品陳列

館視察

七月五日

箱根湯本宿

小田原箱根越、興津泊

〃 六日 杉山村視察、久我山東照宮参詣

〃 七日 試験場参観、愛知県豊橋泊

〃 八日 愛知県南設楽郡鳳来寺

〃 九日 同県北設楽郡振草村郡有林事務所一泊

十日 同県同郡稲橋村一泊

十一日 同県立農林学校演習林一泊

十二日 同県西加茂郡高橋村一泊

十三日 同県碧海郡安城、松林了観氏金山揚水明

治用水々源地

十四日 農林学校、農事試験場、安城一泊

十五日 名古屋一泊、熱田神宮参詣

十六日 伊勢参宮、徴古館、農業館、二見、二見

一泊

十七日 三重県阿山郡玉瀧村一泊

十八日 奈良見物、橿原神宮、神武天皇御陵、大

神社、大和神社、柏原一泊

十九日 柏原農事試験場参観、大坂見物、伏見桃

山御陵、京都一泊

二十日 京都見物、西田博士訪問

二十一日 清水寺成就院ヲ尋

滋賀県愛知郡立愛知実業学校參觀、一泊

二十二日 福井県敦賀郡松原村視察

二十三日 朝一時半出発

午後四時静岡県大宮着

富士登山一合目泊

二十四日 午前一時一合目着

午前八時頂上着、東京泊

二十五日 夜行ニテ東京発

二十六日 帰形

七月二十六日

朝四時五十分の汽車にて山形にかへる。本日より三十日

迄慰勞休暇。一同帰省す。

七月二十七日

休暇

七月二十八日

同上

七月二十九日

休暇なれど石岡與太郎君、高橋猪一君帰舎。

七月三十日

天候 曇天

温度 八十九度〔32〕

本日帰舎したもの、齋藤堅君、齋藤丹羽ノ助君、岸君、

須貝君、川合君、新野君、本田君

七月三十一日 月

天候 曇漸時晴

温度 九十二度〔33〕

八時より三浦先生の中庸講義、後大掃除

午後有志者農場行甘藍追肥。午後六時より安武先生の自

治行政講義あり。

本日帰舎したるもの、槇士朗君、池田君、小野両君、高

橋十君、高橋莞君、五十嵐佐君

八月一日 火

天候 晴天

温度 九拾貳度〔33〕

行事 午前七時参拾分ヨリ県社湯殿山参拝、午前八時ヨ

リ午後四時マデ弁当持参農場実習（畑ノ草刈り）

本日帰舎セル者、蛸井君、村山君

八月貳日 水

天候 晴天

温度 九拾参度〔34〕

行事 午前八時ヨリ午後四時マデ農場実習、午後六時同

八時マデ安武先生自治行政。

八月參日 木

天候 晴天

温度 九拾五度(35)

行事 午前六時參拾分ヨリ七時參拾分經濟学、午前八時

ヨリ正午農場実習、午後安武先生学科休ミ。

八月四日 金曜日

天候 晴

温度 九拾貳度(33)

行事 午前八時ヨリ正午迄農場実習

追記 午后二時ヨリ国分寺ニ開催中ノ仏教講習会ヲ傍聴

ス。午后七時半ヨリ八時半安武先生ノ自治行政。

八月五日 土曜日

天候 快晴

寒暖 午前六時 八十度(27)

行事 有志蔵王登山。在舍生午前中<sup>(ぬかり也)</sup>忽滑谷先生講話傍聴

(女師範講堂)。

午后国分寺薬師堂ニ於テ同先生の仏教講習会ニテ

拝聴。

八月六日 日曜日

天候 快晴

寒暖 八十三度(28)

行事 蔵王登山一行午後八時帰舎。午後二時より四時迄

国分寺薬師堂内の忽滑谷先生ノ仏教講習会參聴ス。

午後二時前小野俊一君急用ノ為メ帰宅ス。

八月七日 月曜日

天候 雨

寒暖 八十四度(29)

行事 一組県庁、二組農事試験場、三組農場実習、午後

六時半より安武先生の自治行政の講義あり。

感想 県庁も得る所なく無為にして帰りしとの事。試験

場も危介物視せられ何事も得る所なし。如何にか

方法を講ぜざる可らずと思ふ。

動静 石岡興太郎君帰省

八月八日 火曜日

天候 晴時々雨降る

寒暖 八十六度(30)

行事 各組各県庁農事試験場、農場に行き、各々研究実

習す。午後四時三浦先生の中庸の講義あり

八月九日 水曜日

天候 雨

寒暖 八十二度(27)

行事 各自の任務に従事す。午後六時安武先生と会食す。

六時半より自治行政の講義あり。

動静 渡辺忠雄君帰舎。五十嵐政次郎君帰舎、午後九時

帰宅。

行事 午後七時半より旅行の慰労会を兼ね水瓜の試食会

あり。九時終る。

八月十日 木曜日

天候 晴し

寒暖 午前七時七十二度(22)

行事 午前七時ヨリ八時マデ経済、午后四時マデ実習、

午后四時ヨリ五時マデ中庸(三浦先生)

動静 鈴木辰治君、小野俊一帰所

感想 酷暑最も甚だしく將に鉄をも溶かさんばかりなり。

蓋し一年中に最高温度を示す時ならん。此の時農

場、試験所、県庁と各々活動をなすとき、やゝも

すれば情気起らんとも限らず、賢明なる諸士奮励

努力せられんこと祈る。

八月十一日 金曜日

天候 晴天 東風強し

寒暖 七十六度(24)

行事 一組八県庁、二組八農事試験場、三組八農場実習

動静 植士朗君、齋藤莞治君、川合和吉君、渡邊辰男君、

鈴木辰司君、岸君、帰省。

夜二号室にて安武先生加藤先生の種々の御話あり。

九時半散会す。

八月十二日 土曜日

天候 晴天 東風強し

寒暖 七十二度(22)

行事 昨日と同じ。齋藤丹羽之助君、東村山郡金井村役

場行き

動静 高橋猪一君、鈴木市三郎君、本田吉馬君、須貝君、

村山徳一郎君、渡邊忠雄君、いづれも午後帰省。

岸善治君、午後七時頃帰舎。

八月十三日 日曜日

天候 晴天 東風止む

寒暖 七十八度(26)

行事 朝食后残り居る高橋十君、齋藤丹君、池田君、新

野君、小野俊君、岸君、官舎に参り茶菓及もちの

御馳走あり。ときに吉田地方指導来所あり。産業

組合の有益なる御話ありたり。

動静 蛸井多治君、徴兵点呼の爲め午前九時半の汽車に

て帰省せらる。川合和吉君、高橋猪一君帰舎。

八月十四日 月曜日

天候 晴天

寒暖 八拾八度 (31)

行事 第一組県庁、第二組帰省者多キ為試験場行八中止

第二組農場。自午後四時至五、三浦先生中庸。自

午後七時至九時卜部学課長講演。

動静 渡部忠夫、鈴木辰二、村山徳一郎、楨士朗、須貝

隼太、本田吉馬、齋藤莞治、

右本日帰所ス

所感 卜部先生ノ講演八大二益スル所ガアツタ。殊ニ青

年団及補習学校ニ対スル見解ハ吾人ノ意ヲ得テ居

ル。願ハクハ此ノ精神ヲ以テ青年会補習教育ニ尽

力セラレンコトヲ望ム。

天候 晴天

寒暖 八拾度 (27)

行事 自午前七時至八時所長ノ植物。第一組県庁、第二

組農事試験場、第三組農場実習。自午後二時至四

時吉田産業組合主任ノ組合ニ付テノ講演。終テ大

掃除。自午後七時至拾時半池野畜産技手ノ畜産ニ

付テノ講演。

八月拾六日 水曜日

天候 晴天

寒暖 八十五度 (29)

行事 第一組県庁、第二組農事試験場、第三組農場実習

自午後二時至四時吉田産業組合主任ノ組合ニ関ス

ル昨日ノ続き。自四時至六時半藤宮土木課長ノ土

木ニ関スル講演。

自午前七時至八時安武先生ノ自治行政アリタリ。

八月拾七日 木曜日

天候 晴天

寒暖 八十七度 (31)

行事 第一組県庁、第二組農事試験場、第三組農場実習

自午後二時至四時吉田産業組合主任組合ニ関する

昨日ノ続き。自四時至五時三浦先生中庸。自午後

七時至九時長澤指導は自治研究に至りし動機に付

テ講演ありたり。

八月十八日 金曜日

天候 晴天

寒暖 八十三度 (28)

行事 過る十日間、組別□□□□予定の通り、一之組農事



試験場、二之組農場、三之組県庁に行く。午後一時目至四時、吉田産業主任の話、自午後六時至八時安武先生の地方製度(マ)の話あり。九時頃より我農場に植えたる西瓜の試食あり。六貫何百匁、西瓜は即ち数分間にして腹の中に収まり。又馬鈴薯の品種分配あり。馬鈴薯の収穫農場主ノ好成(精カ)にして之第一組の畑なりけり。

八月十九日 土曜日

天候 晴天

寒暖 八十四度(29)

行事 午前二時加藤所長、本田君、高橋十君、齋藤丹羽

之助君、齋藤(完)君、小野(俊)君等三日間の予定にて月山登山の旅行せられたり。授業とて別になく有志のみ農事試験に行く。池田君、楨君の兩人は山寺に行かる。

(上部余白に)此の日藤井前理事官の友人なる柴田鏡次

氏来所参観せられたり

八月二十日 日曜日

天候 晴天

寒暖 八十六度(30)

行事 朝風呂たつ

八月二十一日 月曜日

天候 晴天

寒暖 八十三度(28)

行事 午後七時頃より安武先生の講話ありたり。

動静 十九日月山登山せられたる所長、齋藤(丹羽)(完)

両君、本田君、高橋十君、小野君等は無事帰舎せられたるが、小野君は途中より帰宅せられたり。

午後四時頃となむ。

八月二十二日 火曜日

天候 晴天

寒暖 八十二度(28)

行事 自午後四時至六時芦野山形県原蚕種所長の当県に

於ける養蚕業一班に付御講話あり。

動静 帰宅中なる小野俊一君、帰所せらる。

八月二十三日 水曜日

天候 曇天

寒暖 八十四度(29)

行事 自午後四時至六時能代水産技師の山形県水産に關

する講話あり。午後七時より所長の農村自治研究あり。

八月二十四日 木曜日

天候 降り出した様な天気なり。後小雨

寒暖 八十一度(27) 朝昼は又涼しくて年中の好季節なり。

行事

例の如く一組は試験場、二組は農場、三の組は県庁なるも、試験場は又馬鹿に面白からず。午後自  
式時至四時、三浦老師の四書あり。自四時至六時  
村岡耕地整理主任の耕地整理の如何なれ必要な  
やに付御講話ありたり。

八月二十五日 金曜日

天候 曇天

寒暖 七十八度(26)

行事 午前中は例の如く自午後二時至四時吉田産業組合  
主事補の講話、自四時至六時佐藤警保課長の講話  
ありたり。

八月二十六日 土曜日

天候 晴天

寒暖 七十九度(26)

行事

午前中例の如く。自午後至四時吉田産業組合主事  
補の講話あり。自四時至六時鶴来衛生技師の講話  
あり。農業試験場より寄附せられたる葡萄の試食  
せり。

動静 午前中五十嵐佐恭君帰省、午後より渡邊忠雄君、  
齋藤莞爾君、本田吉馬君、岸善次君、帰省せらる。

八月二十七日 日曜日

天候 晴天

寒暖 八十度(27)

行事

動静 帰省中なる齋藤莞爾君は午前十一時、本田君は午  
後五時

八月二十八日 月曜日

天候 晴

寒暖 八十一度(27)

行事 午前中、本日ヨリ一組八農場、二組八県庁、三組  
八農事試験場行き。午後二時ヨリ同三時四十分迄  
吉田産業組合中央会山形支会主事補ノ産業組合ノ  
講話、午后四時ヨリ同五時四十分迄古川測候所長  
ノ気象講話。

八月廿九日 火曜日

動静 朝五十嵐佐恭君帰省、午後渡辺忠雄君帰省。

天候 晴午後稍曇、南東ノ風有り

温度 七十九度(26)

行事

定時より第一組は農場、第二組八農事試験場、第

三組八県庁二行く。午後三時半山形県山形測候所  
二視察に行く。五時半帰舎。

八月三十日 水曜日

天候 快晴

温度 八十四度(29)

行事 前日二同じ。午後吉時所長を始めとし渡邊辰男君、

石岡與太郎君、楨士朗君、村山徳一郎君、小野俊

一君等、蔵王登山ノ為め、本日出発。

動静 五十嵐佐恭君、鈴木辰司君、鈴木市三郎君、帰省

せらる。

八月三十一日 木曜日

天候 朝来雨降ル、晴るゝかと思へば亦降る

温度 八十二度(28)

行事 本日はあやに畏しこきあまつみ神のさし出給へる

日(大正期の天長節(天皇誕生日))なるを以て

休業し、祝式とはなかりしが輝光旗の下に聖寿い

やさかを祈り奉る。

動静 蔵王登山者無事帰所せらる。心配せし雨難もな□

もなく却つて上層は好天気にして愉快に浩然の気

を養はれし由。

九月一日 金曜日

一、天気 快晴

一、温度 七十六度(24)

一、行事 一同午前七時 湯殿山神社に参拝

午前八時より第一組は農場、第二組は県庁、第三

組は農事試験場に行く。午後二時より三時二十分

迄加藤所長の経済学、四時半より六時迄大日本内

務省嘱託生江孝之氏の講話あり。氏はデンマーク

の国民高等学校に説き出だし提業の改善にあれ、

農村の振興にあれ、要は人の問題なり、半知半解

は却つて世を害す、唯誠心誠意以て当然の職を尽

せと。言簡なりしと雖ども深淵無妙の教訓を含む。

樽牛氏は「文は人なり」と言へり。豈に文のみな

らむや。

九月二日 土曜日

一、天気 快晴

一、温度 七十七度(25)

一、行事 第一組附属農場、第三組農事試験場、第二組

県庁

一、動静 齋藤完爾君帰省

九月三日 日曜日

一、天候 快晴 朝ノ中大分涼し

一、温度 八十度〔27〕

一、行事 午前七時半ヨリ十時迄自治行政。講義中兼ネ

テ来所ノ噂アリシ安部理学士来所セラル。本日八

月分食費補給セルニワキ生徒ノ鼻息荒シ。

午後一時頃ヨリ三三五打チ連レテ山形停車場の

落成式ニ臨ム。

### 九月四日 月曜日

一、天候 快晴

一、温度 七十七度〔25〕

一、行事 午前七時―八時迄物理学安部理学士、午後大

掃除、四―六時物理学、安部理学士

### 九月五日 火曜日

一、天候 晴れ後曇り

一、温度 七十八度〔26〕 うむれあつき一方ならず

一、行事 午前七時より九時まで安武先生、同九時より

十一時半まで阿部先生、午后四時より六時まで松

岡山形県農事試験場長の講話

一、感想 長きと思ひし九ヶ月間も余す所旬日にして、

我等は正にこの地を去らんとす。九ヶ月間果して

我等は何物を得たりや。広くして一言に尽しべか

らずといひ、農村なる觀念深く入りたるを覚ゆ。

二十二名の賢児も皆々私かに将来を期するが如し。

我等の目的八実に雄大なり。即ち地方農村の中心

人物。地方の人八今やおそしと我等が来て来らん

ことを待つが如し。高遠なる寛先生の古神道讀ま

ざれ、数日この世にありし赤子も黄泉に馴るに、

我等は宇宙人類に偉大感化を残すと八心理学上も

実事なり。これを思はば地方なる中心人物の一挙

手一投足、何如にこの世に影響を及ぼすや。実に

我等の責任たるや重且つ大なり。親愛なる賢士二

十二名よ、自我実言、否普遍、我に帰一して自治

組織人として自治講習所本来の大理想に達せざる

べからず。天高く馬肥るの候、幸に健全なれ。

### 附記

午后七時より阿部先生と共に茶話を開く。先生

八自然<sup>(ママ)</sup>化学等の学問上のみ先生と思ひしに、

農村に対する御意見ありしハ、我等の面白く且つ

非常な利益を得たり。ことに農村の信仰、農村青

年男女娯楽<sup>(ママ)</sup>つき又実業補習学校教育につき種々の

### 九月六日 水曜日

天候 雨

寒暖 七十六度〔24〕

行事 午前九時より十一時半まで阿部先生の講義あり。

午後は四時より六時まで加藤先生の経済の講義、

六時半より安武先生の講義あり。午後八時より講

習生全部阿部先生の帰京を送つて停車場まで。帰

りたるは午後十時なりき。

九月七日 木曜日

天候 雨降り

寒暖 七十五度(24)

行事 午前七時より九時まで安武先生の講義、九時より

十一時半まで加藤先生の農村経営、午後四時より

六時まで齋藤警察部長の講話あり。夜講習生の相

談会あり。

九月八日 金曜日

天候 曇

寒暖 七十四度(23)

行事 自午前八時至午前十時、加藤先生ノ経済学。自午

后四時至同六時伏見裁判所長ノ講演。

九月九日 土曜日

天候 曇

寒暖 七十五度(24)

行事 午前七時より九時まで地方制度。九時より十一時

迄農村と古神道と古武士。午后三時—六時林技師

講演。林技師の風采はまづ工夫の親分と云ふ、能

たたいてみると中々口が上手、材料も豊富、中中

村山地方はよろしいとのこと。米価調節論は吾田

引水やつて、まづ一息。

動静 左の諸賢帰省せらる。五十嵐佐恭、渡部辰夫、渡

部忠雄、川合和吉、榎士朗、岸善次、鈴木市三郎。

九月十日 日曜日

天気 晴れたり曇りたり

温度 七十六度(24)

動静 小野俊一君帰省、渡辺忠雄、榎士朗、岸善次帰舎

九月十一日 月曜日

天気 曇りたり晴れたり又雨

温度 八十四度(29)

行事 午前中八加藤先生の農村経営

動静 川合和吉、五十嵐佐恭、鈴木市三郎、村山徳一郎

—諸氏帰舎

九月十二日 火曜日

天候 曇り又雨

温度 七十二度(22)

行事 午前七時ヨリ九時マデ安武先生。午前九時ヨリ十

一時マデ加藤先生。午後一時ヨリ二時マデ三浦先生。

動静

渡辺辰男、鈴木辰司の両君、帰舎

感想

恩師三浦先生トハコノ講習所デノ最後ノ御教訓デアル。先生八重々シクテーブルヲ扣テ御講話セラレタリ。

大死一番

身ニシミ骨コタヘテ将来ノコト太イニ覚悟スル所アリタリ。先生ヨ、先生ハ老身ヲ推シテ我等ノ為メニ御熱心ニ、シカモ寒暑イトハズ、九ヶ月間一如何リ御意アル御教、我等ハ争デ忘ルベキ。我等ガ先生ノ鴻恩ニ報ユルニタダ地方ノ完全ナル中心人物ニナルニアル。先生ノ御健康ヲ祝シツツ御教訓ニ従ツテ永遠ニ活動セン。

九月十三日

天候 曇、雨、交々至ル

温度 七十度 (21)

行事

午前八時ヨリ十一時迄加藤先生の農村経営、農会殖民論から結論に至る迄。午後学課無かりき。

□ □ 会ありし筈。本日午後村山会庄内会聯合

離集。

九月十四日 木曜日

天候 曇雨

温度 七十五度 (24)

行事

明日八閉所式ナレバ準備ニイソガワシク舎内ノ大掃除及式場ノ整頓ヲナス。

動静

全部出席

感想

九月十五日 金曜日

天候 曇 晴

温度 七十四度 (23)

九ヶ月間の講習も愈修了を告げ本日修了式を挙げらる。

昨日迄降りつゞきし雨も全く霽れ、門頭に掲げらし旭旗翻々と、風に靡きて、今日の盛典を祝するが如し。修了生諸君にあつても蛸雪の勉励こゝに至れるかを思へば、

胸中流石に欣喜を禁じ得られず。然れども三百日の間寝食を共にし、或時は興津の海辺、加茂川の水辺、富士の山頂に、詩情を謳ひ、天下の絶を叫びし友と今や袂を分かたんとす。誰か離別の情は涙無きを得んや。心おちつく所なきが如く、廊下を往来、或は、たゞづみて空外を眺めてなつかしき山河に愛別の情を述ぶるもあり。机に向ふ者あれども読書するにもあらず。こゝの室には四五

人集まりて「もうおわかかれか」と互に将来の祝福を祈る者もあり。かくて九時は過ぎぬ。五十嵐佐恭君、鈴木市三郎君、齋藤堅吉君は応接掛と定められ、主なる来賓は添田本県知事、内務部長、安武理事官、其他の知官吏、伊佐早先生、三根山中校長、師範学校長、柴垣氏、池田西村山郡長、伊藤西置賜郡長、鶴見、登坂両県、其他町村長、修了生父兄等、五十余名、午前十時を報するや、式場に当てられたる階上講堂に着席、室内は清らかに掃かれ、中央には修了生得意心中に漲れども、肅然として控かへ、左右には来賓、各位居列らび、正面には千代八千代を寿き祝ふ翠松の立てられ、式場いとも荘厳に見られたり。所長開式の辞に次ぎて、修了鑑授与、並に所長告辞あり。修了鑑に記されたる「益々自治に努力すべし」とは之れ吾人の真面目の心の叫びなりと。所長の言常に吾人の肺肝を刺す。

知事閣下は敵父の慈子を諭すが如く、或は激励したまへ、或は抑へ、宜ろしく世界の大勢に順応し、数理的に事物を研究し、国家の町村の定むる法規を遵法し、以て自己の修養を怠らむ将来中心人物となりて地方の振興に努力せよと。

次いで鶴見県議、池田部長、楯山村長の御懇厚なる祝辞

を賜はり、五十嵐政次郎氏は之れに対し、修了生一同を代表し答辞を述べ、閉式せり。終つて展覽室に於て来賓各位に生徒栽培の庄内原種「いも」を上ぐ。其の味の佳否は知らざれども、中心人物の卵子の評の凝結と感謝せられて、御笑味あらば幸甚の至りなり。直ぐ記念撮影をなす。

午後一時展覽室に於て、町村長、父兄諸士と会食をなす。五十嵐政次郎君の挨拶、安武講師の訓辞あり。御すしの御馳走に一同舌鼓をうつ。食膳の取り方付け、式場の整理をなし、午後三時一同県社湯殿山神社に参拝す。

夜午後六時、所長官宅に招ねかれ、西洋料理にて「うどん」の餐を受く。食膳を終へて同窓会に就き相談をなす。たまたま長澤県属の臨席あり。会名は知事閣下御命名の地方改良研究会と大略定む。

一同一夕の快をつくし八時半辞して帰へる。噫、愈々明日にて東往西去、山河百里の地に分かる。身は北界南境に在りと雖へども、心ざす道は唯一、呱呱の声をあげし本所の生長は所長並に各位の御尽力に依るは勿論なれども、吾人こゝに学びし者の本所愛顧の情の如何に負ふ所亦少なからざるを。

二期生以下の各士も本所の見ざす明星に的をすえ、前



期生のなす所を省み、悪を捨て善を採り、完全なる本所  
気風の確立を望む。自治寮日誌最終の筆を措くにあたり  
て、誠意誠心吾人の真面目に於て諸君の弥栄えに栄え増  
さん事を祈る。唯々弥栄を弥栄!!を。

大正五年九月十六日夜（本田生誌す）

言忠信、行篤敬、

気浩然、宇寛大、